

うっしっしいー情報2015

11月市



豊岡農業改良普及センター

11月11日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が103万8千円、雌が85万5千円でした。

普及センター調べ（税込価格）

（本人落としも含むため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
宍粟・佐用	5	0.970	999,648	10	0.877	825,228	15	883,368
篠山	4	0.909	832,680	7	0.804	786,240	11	803,127
丹波	18	0.977	1,043,280	8	0.866	865,215	26	988,491
朝来	3	0.914	1,047,960	5	0.784	816,480	8	903,285
播磨	19	0.925	1,015,257	6	0.845	717,660	25	943,834
美方郡	72	0.975	1,036,290	63	0.863	874,389	135	960,736
豊岡	24	0.966	1,066,320	17	0.867	922,574	41	1,006,718
養父	19	0.995	1,096,200	22	0.910	894,633	41	988,042
摂津・神戸	-	-	-	3	0.703	680,040	3	680,040
県北C	3	0.776	948,240	10	0.767	759,672	13	803,188
市場全体	167	0.964	1,038,436	151	0.856	855,331	318	951,490

11月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	照忠土井	23	0.982	1,068,449	14	0.842	932,966	37	1,017,185
2	芳悠土井	37	0.995	1,074,571	39	0.899	913,126	76	991,724
3	丸宮土井	35	0.941	1,059,079	21	0.848	867,909	56	987,390
4	芳山土井	41	0.976	1,033,033	26	0.876	867,365	67	968,744
	総計	167	0.964	1,038,436	151	0.856	855,331	318	951,490
5	千代藤土井	6	0.924	1,039,140	5	0.841	818,424	11	938,815
6	丸富土井	9	0.904	948,480	22	0.818	775,931	31	826,026

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	照忠土井	B	A+++	A+	A+	A+++	A+
2	芳悠土井	A+	B → A	A	A → B	A	A++
3	丸宮土井	B	B	A+	A++	A++	A++
4	芳山土井	A+	A++	A++	C	A++ → A+	A++
5	千代藤土井	A	A+++	C	A++ → A+	A++	A++
6	丸富土井	B	A++	D	C	A	A++

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成27年7月現在)

飼料給与の目安は、もっていますか？

～応用編～

先月号（10月）では、母牛に給与する飼料の量や種類が計算上、必要量が「不足」あるいは「過剰」な場合、どのように改善するかについて説明しました。今月号は、お腹の赤ちゃんが一番大きくなる妊娠末期や授乳期など、母牛のステージにあわせた飼料計算方法について説明します。尚、今回は重さの単位が「kg」と「g」を併用して記載するのでご注意ください。

1 前提条件

今回、計算するにあたっての前提条件は以下のとおりです。

(1)維持期(離乳し妊娠鑑定済み)に必要な養分量

母牛の**体重は400kg**とし、必要な養分量は、乾物量（以下、DM）5.53kg、可消化養分総量（以下、TDN）2.76kg、粗蛋白質量（以下、CP）441gです（表1）。

(2)妊娠末期に必要な養分量

分娩2ヶ月前から胎児が一番成長するため、必要な養分量が増加します。維持期の養分量に追加する量は、DM：1.0kg、TDN：0.83kg、CP：212gです（表2）。

(3)授乳期に必要な養分量

子牛が哺乳している時に維持期の養分量に追加する量は、母牛の1日当たり泌乳量により変わり、泌乳量1kg当たりDM：0.5kg、TDN：0.36kg、CP：97gです（表3）。

体重 (kg)	乾物量 DM(kg)	可消化養分総量 TDN(kg)	粗蛋白質量 CP(g)
400	5.53	2.76	441

表1 体重400kgの成雌牛維持に要する養分量

乾物量 DM(kg)	可消化養分総量 TDN(kg)	粗蛋白質量 CP(g)
1.00	0.83	212

表2 分娩2ヶ月前から追加する養分量

乾物量 DM(kg)	可消化養分総量 TDN(kg)	粗蛋白質量 CP(g)
0.50	0.36	97

表3 泌乳量1kg当たり追加する養分量

2 実際の計算

(1)分娩2ヶ月前に必要な養分量と飼料給与

分娩予定日の2ヶ月前頃から胎児が一番成長するため、必要な養分量が増えます。但し、この頃に飼料の量を増やしたからといって必ずしも胎児が大きく産まれてくるわけではありませんが、分娩後の繁殖性や産まれた子牛の健康面では良い影響があるようです。話がそれましたが、分娩2ヶ月前に給与する養分要求量は表1の養分量に表2の養分量を加算した量で表4となります。表4の養分量を10月号の飼料で充足させるには、イタリアンを4kgから4.7kg、稲わらを1.5kgから1kg、配合飼料は0.9kgから2kgにします（表5）。計算の手順は9月号を参考にしてください。

乾物量 DM(kg)	可消化養分総量 TDN(kg)	粗蛋白質量 CP(g)
6.53	3.59	653

表4 維持期に妊娠末期を追加した養分量

内容	各種成分(%)			改善後給与量と給与成分量			
	DM	TDN	CP	量(kg)	DM(kg)	TDN(kg)	CP(g)
イタリアン	86.0	46.0	8.0	4.7	4.04	2.16	376
稲ワラ	87.8	37.6	2.0	1.0	0.88	0.38	20
配合飼料	90.0	68.0	13.0	2.0	1.80	1.36	260
				合計	6.72	3.90	656
				充足率	103	109	100

表5 分娩2ヶ月前から分娩までの飼料給与内容

(2)授乳期に必要な養分量

授乳期に必要な養分量は、表1に表3の養分量の乳量をかけた量を加算します。例えば、ピーク乳量を6kgとした場合、乾物量では、維持期の5.53kgに授乳期の0.50kg×6kg（泌乳量）を足して8.53kgとなります。同様にTDNもCPも計算します。その結果が表6です。この表6の養分量を充足させるためには、イタリアン5kg、稲わら1kg、配合飼料3.7kg、そして、大豆粕を新たに300g追加します（表7）。計算の手順は、上記と同様9月号を参考にしてください。

乾物量 DM(kg)	可消化養分総量 TDN(kg)	粗蛋白質量 CP(g)
8.53	4.92	1023

表6 泌乳量6kgの場合の養分量

内容	各種成分(%)			改善後給与量と給与成分量			
	DM	TDN	CP	量(kg)	DM(kg)	TDN(kg)	CP(g)
イタリアン	86.0	46.0	8.0	5.0	4.30	2.30	400
稲ワラ	87.8	37.6	2.0	1.0	0.88	0.38	20
配合飼料	90.0	68.0	13.0	3.7	3.33	2.52	481
大豆粕	88.2	76.8	45.0	0.3	0.26	0.23	135
				合計	8.77	5.42	1036
				充足率	103	110	101

表7 泌乳量6kgの飼料給与内容

4回にわたり飼料計算について説明しました。電卓でもできますが、普及センターには計算ソフトがありますので、興味のある方はお気軽に声をかけて下さい。